

# トラフグ資源増大技術開発事業

沖大樹・藤田弘一・奥村宏征

## 目 的

伊勢湾放流群の放流サイズの小型化および熊野灘放流群の適地放流による添加効率向上によりトラフグ放流事業の効果的な推進を図る。

なお、結果の詳細は関連報文に報告したので、ここではその概略を記載する。

## 方法および結果

### 1. 放流試験

- ・供試魚 25,000 尾（平均全長 35.9mm）を、5 月 31 日に（独）水産総合研究センター南伊豆栽培漁業センターからトラック輸送で尾鷲栽培漁業センターに受け入れ、中間育成を開始した。輸送時のへい死尾数は約 30 尾と僅かであった。
- ・イラストマー標識装着作業は 7 月 3 日から 4 日にかけて、尾鷲栽培漁業センター海面中間育成施設で行った。標識装着尾数は 19,989 尾で中間育成歩留まりは 80.0%と前年の 96.5%を下回ったが、尾鱗欠損もほとんど無く良好な種苗（平均全長 77.8mm，平均体重 11.9g）が確保できた。
- ・標識作業は、エアージェクターを 10 台使用してこれを主とし、手打ちも併用して行った。視認性は A：74%，B：18%で前年より A の割合が高くなった。
- ・標識放流魚は、トラック輸送で、7 月 13 日午後に海山町引本湾の湾奥部に放流した。
- ・放流時のへい死個体や衰弱個体も見られず、標識魚のほぼ全数を放流尾数とみなして良いと考えられた。

### 2. 資源利用実態調査

- ・0 歳魚を対象とする小型底曳網，1 歳魚以上を対象にする延縄について漁獲統計調査を実施した。
- ・漁獲物調査とイラストマー標識魚の発見は、有滝・安乗・甲賀・波切・二木島市場を中心に実施した。その他、和歌山県三輪崎市場でも調査を行った。
- ・小型底曳網の 11 月から 2 月までの推定漁獲量は 1.7 トンで、前年（1.6 トン）とほぼ同じであった。
- ・延縄漁獲量は 71.3 トン，漁獲金額は 2 億 7837 万円で、漁獲量は前年比約 1.8 倍，漁獲金額は前年比約 1.4 倍であった。

### 3. 放流効果調査

#### 小型底曳網

- ・イラストマー標識を指標とする H19 年放流群の回収率は、伊勢市地先 0.11%，二見町地先 0.29%，日間賀島沖 0.13%，太田川河口 0.10%で、引本湾放流群は発見されなかった。一方、ALC 標識を指標とする H19 年放流群の回収率は伊勢市 35mm0.27%，伊勢市 45mm0.07%，伊勢市 77mm0.16%，と推定された。

#### 延縄

イラストマー標識（調査尾数 1,340 尾，調査率 1.8%）

- ・H18 伊勢市放流群の回収率が 1.57%と最も高く、次いで H18 浜名港放流群が 0.90%，H18 二見町沖放流群が 0.54%，H18 太田川放流群が 0.50%であった。H18 引本湾放流群は全く発見されなかった。さらに、2 歳魚である H17 野間沖放流群は 0.50%，3 歳魚である H16 矢作川河口放流群 0.51%，H16 伊勢市共同放流群 0.33%と推定された。
- ・和歌山県三輪崎では、H18 太田川河口放流群が 0.05%と推定された。

ALC 標識（調査尾数 551 尾，調査率 2.0%）

- ・H18 伊勢市 36 mm放流群の回収率は 0.28%，伊勢市 58 mm放流群は 0.36%，浜名港 55 mm放流群は 0.64%，太田川 51 mm放流群は 0.63%と推定された。H17 野間沖 25 mm放流群は 0.86%，野間沖 44 mm放流群は 0.14%と推定された。

#### 関連報文

H19 年度資源増大技術開発事業報告書 回帰性回遊性種（トラフグ） 佐賀県・山口県・大分県・愛媛県・三重県・愛知県・静岡県・秋田県

